

ふ

く

ろ

う



H. 24. 1

花巻市博物館

「吉村作治の 七つの文明展」

「特別展」本年九月に開催

今回の特別展の意義のひとつは、文明について再考する契機にあると思います。文明は人間の作り出したものでありますが、本来自然と人間の関係の中で捉えるものだと思います。自然と人間の共存が前提であるべきなのに、近代文明の成立以降、めざましい科学技術の発展と共にいつしか、人間は文明から自然を切り離すようになってきたのではないのでしょうか。文明の原点とも言える古代文明に触れ、数千年に及ぶ人間の営みの痕跡を実感することがこの展覧会の目的となっています。特にも未来を創る子供たちにぜひ見てもらい、そこから学び、考えて欲しいと願っています。以前は縄文文化が遅れた文化とする考え方がありましたが、自然との調和といった意味では、まったく異なる評価がされるようになっていきます。こうした中から自然と人間が共存できる新たな文明を模索することになるのではないのでしょうか。

今回は、エジプト文明、オリエンタル文明、ギリシャ・ローマ文明、シルクロード文明とインド文明、中国文明、中南米文明、縄文文明の七つの文明が取り上げられています。

地球上の長い歴史の中で誕生したあまたの文明を横断的に展示することで、「文明とは何か」「人類はどこから来たのか」「人は何のために生きるのか」といった根源的な問いに向かい合う展覧会であり、子供から大人までが「文明」の知識を得て、その意味を探ることの出来る体験型の展覧会です。

館長 高橋 信雄

博学連携県内視察レポート

11月21日に行われた、博学研究員県内視察の参加者のレポートをお届けします。次年度に、平泉の学習を予定している学校の参考資料にさせていただきたいと思います。

東和小学校 照井祐悦

平泉方面の視察で新たな発見がありました。リニューアルされた平泉文化遺産センターを見学して、藤原文化の栄光に触れることができました。展示物のレイアウトも効果的で、世界遺産登録への道筋や取り組みも詳しく分かるように工夫されていました。

また、役場とタイアップして、地元の小学生に「かわらけ」の発掘作業を体験させていると聞き、体験学習も重視しながら将来の担い手にも世界遺産の保護を意識させていました。柳之御所資料館では、DVDで視覚的に分かりやすい説明でした。政治の中心地としての役割を小学生でも分かるように添付されている資料から読み取ることができる。

今回の視察を通して、施設のリピーターを増やす努力や、どんな年代にも分かりやすさを追求しながら運営されていることを感じ取ることができた。

石鳥谷中学校 福島巧

今回の視察で「平泉」が教材として歴史的分野のみで扱うものではないということを感じました。「平泉」は中尊寺金色堂をはじめとして、奥州藤原氏の行った政治や文化を取り上げ、歴史の教材として扱われることが多いと思いますが、とらえ方を工夫すれば地理や公民の分野の教材ともなると思います。

地理的分野の教材としては、特徴的な文化の残る地域として扱えないのでしょうか。規模

や範囲は小さいようですが、京都のように一般の建物も観光地としての景観を崩さないような工夫がされていました。平泉小学校の校舎や商店などもそう感じました。それに関連して、公民的分野の教材としては地方自治の分野で取り扱えると思いました。町の景観を崩さないようにする取り組みや、世界遺産をPRしている様子を見て、地域がまとまって積極的に活動している印象を持ちました。こうした様子は、地方自治の新しい地域づくりの身近な例として紹介できると思います。

歴史的分野の教材としては、平安時代末期から鎌倉時代初期の藤原氏を中心に、東北と中央の関係や独自の文化に一層注目して扱うことができると思いました。

社会科において、「平泉」を岩手県内にある世界遺産として生徒に授業することで、地元や教科に対する興味関心を高めていけると感じた視察でした。

石鳥谷小学校 吉田 泰治

私にとって、世界遺産登録後初の見学となりましたが、荒天にも関わらず見学者の激増ぶりは目にも明らかでした。

他県からの観光バスで賑わう平泉ですが、県内特にも児童の関心はどれほどでしょうか。児童の日記に、都心のテーマパークへの旅行記はあっても「金色堂」の見学記は見かけない気がします。教科書にも奥州藤原氏の記述は薄いのですが、児童がこの機に岩手の誇る文化遺産に触れられるよう学校にも手助けをしなければならないのかもしれない。

今回の見学で特に興味をひかれたのは、柳之御所遺跡に展示された中国産及び愛知産の陶磁器でした。隣町の紫波町の比爪館跡周辺からも同様の陶磁器が出土し、比爪氏と奥州藤原氏との深い交流がうかがえる資料となっています。身近な世界遺産関連史実として教材化に取り組んで見たいと感じました。

湯本小学校 竹林 瑞彦

視察した施設の中で特にお勧めしたくなる施設は平泉文化遺産センターだった。この施設に入るとすぐに「中尊寺ハス」が飾られて

いた。4代泰衡の首桶の中から発見された80粒近い種子のひとつを800年後に開花させたものだという。このようなことを知った上で花を見ると、800年前の時を超えてタイムスリップしたような感じになった。

その他にも、浄土世界を目指して建設された「北の都」平泉の説明、藤原氏4代の歴史などここを見学すると詳しく知ることができる。発掘された貴重な品々の展示、映像による説明もとても分かりやすく、小学生でも十分理解できるものであった。湯本小学校でも6年生が平泉（中尊寺金色堂）に校外学習に行っている。平泉文化遺産センターを見学してから中尊寺を見学すると、また違った見方ができるのではないかと感じた。お勧めしたい施設のひとつであった。

花巻北中学校 高橋 健太郎

以前にもまして登録後の平泉は平日にも関わらず人がたくさんいた印象でした。

平泉文化遺産センターの展示物は、時系列に沿って配置してあるなど工夫がなされました。しかし、初めて平泉を訪れる観光客に理解できるような展示という点では、少し難しいのかと感じました。岩手に住む私たちはある程度の予備知識があります。「平泉」のすごさは『岩手という都からこんなに離れた土地に、京都のような建物と極楽浄土の庭園が広がっていた』ということだと感じます。

「岩手を治めていた豪族（武士）は・・・」というあたりから噛み砕いて順々に展示されているのもっと興味が持てた気がしました。柳之御所資料館はビデオが興味深く分かりやすかったです。毛越寺の宝物殿、中尊寺の資料館を含め一か所で展示すれば見やすくなると思いました。

あとがき

博学研究員の先生方の平泉への視察レポートと、次年度開催の「吉村作治の七つの文明展」の紹介の号となりました。次年度の各校の学習活動に活用していただければ幸いです。今年も市内小中学校のたくさんのご利用をお待ちしております。